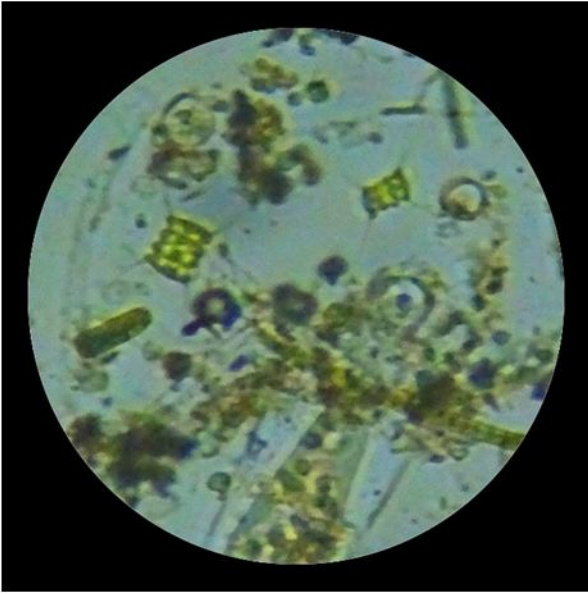


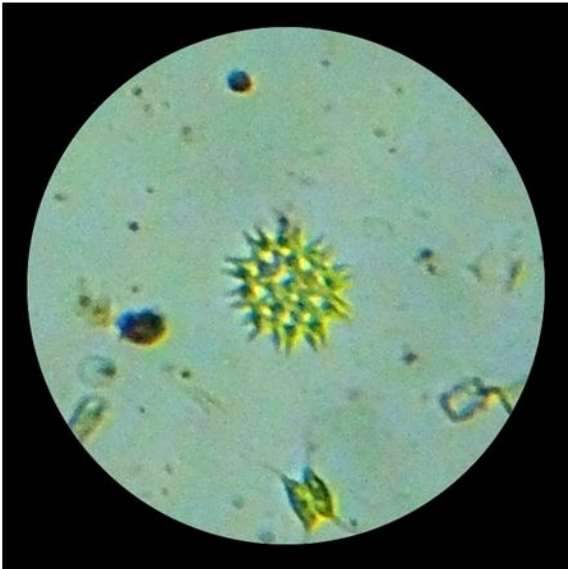
「三日月沼のミカヅキモ (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

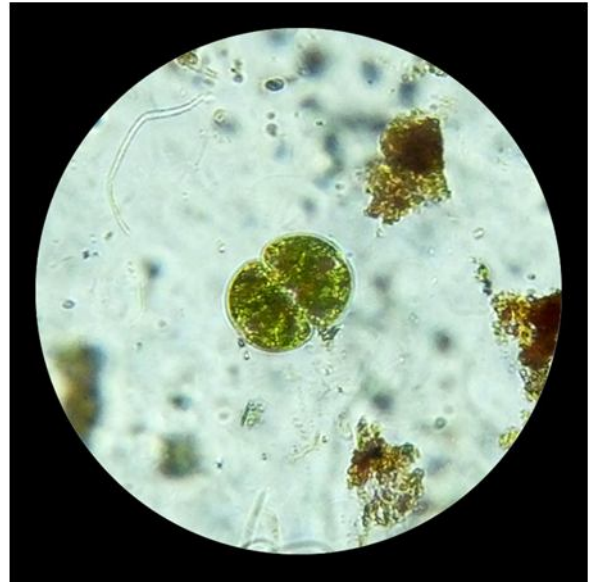
三日月沼の水を採取してきたのは、ミカヅキモをさがすためである。しかし、動く動物性プランクトンに、ついつい目がいってしまう。今度は、緑色をした植物性プランクトンを重点的に観察してみた。



一番多かったのは、イカダモである。通常4個の細胞が連結していて、四隅に角(刺)があるので、すぐにわかる。長期間放置した水槽の水が、緑色に濁っていたら、まず犯人としてイカダモを疑うべきだ。



クンショウモも多かった。同定は困難だが、何種類かあるようである。顕微鏡の接眼レンズに、直接コンパクトデジカメのレンズを押し付けて撮影しているので、フォーカスがあまり良くない。



これはツツミモの仲間。これも、多かった。ツツミモも、池や沼の水を緑色に見せる原因の一つである。



何度も試料を作りなおして観察を続けるうちに、ついにミカヅキモが見つかった。数は少ないが、まさしく「三日月沼のミカヅキモ」である。ミカヅキモは圃場に小さいので、ピント合わせが難しい。40倍の対物レンズを使って、微動でピントを決める。この写真でも、ミカヅキモにピントを合わせると、それより上の緑藻はぼやけてしまう。いやしかし、目的は達成した。そもそも「三日月沼」と「ミカヅキモ」には何の関連性もない。名称が似ているだけなのだが・・・。